

公益社団法人部落問題研究所 2015年度事業報告

1 部落問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から21世紀の現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の全社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。

前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分(制)社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明することなどの方針をそれぞれ掲げて、以下のとおり研究を進めた。

ア. 科学研究費助成事業(科研費)の交付を受けて遂行している研究

前近代・近現代を通じた共同研究を次の2つの研究課題を掲げて遂行した。

- ①「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究」(研究代表者・廣川禎秀、基盤研究(B)2012～16年度)
- ②「行き倒れに関する国際的比較地域史研究—移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析」(研究代表者・藤本清二郎、基盤研究(B)2015～17年度)

4年目を迎えた①では、16名の研究組織によって、近代日本における地域社会の構造的変貌と民衆運動の多様な展開について、その相互関係を重視して総合的・実証的に、また前近代から現代までを射程に入れた長期的な視野の中で明らかにする作業を進めている。

2015年度新たに採択された②では、経済学・社会福祉学・法学(法制史)研究者なども含む12名からなる研究組織を構成し、近世から戦後現段階を通して、また日本と中国・イギリス・アメリカ等との比較による共同研究を開始した。本研究では、2016年度から、清代中国・植民地朝鮮・女性史等を研究する5名を新たに研究組織に加える。

以上の共同研究に加え、科研費の交付を受けた次の個人研究も進めた。

- ③「戦後教員組合運動の地域社会史的研究—大教組所蔵文書の史料論的検討を通じて—」(研究代表者・坂井田(森下)徹、基盤研究(C)2014～16年度)

イ. 各種の研究会での報告

アの研究の成果は、部落問題研究者全国集会・科研費研究例会・歴史研究会で報告した。この中、身分と身分的周縁の研究で全国的にも中心的な位置を占めてきた前近代分野では、第53回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会で「近世身分研究の新展開」をテーマとして研究報告を行った。

また、地域史や社会運動史の再構成をめざして研究を進めてきた近現代分野でも、3回にわたる研究会での準備報告を得た上で、部落問題研究者全国集会において「戦時・戦後の地域における政治構造と社会運動」をテーマとする歴史Ⅱ分科会を開催したほか、坂井田徹研究代表者の科研費研究と共同して研究を進めた。

戦後70年に当たる2015年の第53回部落問題研究者全国集会の全体会では、戦争・戦争体験の歴史的研究の最先端に立つ吉田裕氏の基調講演と2人のコメントを得た。

【歴史研究会】※会場は部落問題研究所

- 6月 6日 島田 克彦：明治の山林所有をめぐる榎尾山施福寺と横山谷の村々
森下 徹：「大教組文書」調査中間報告
- 8月 1日 竹永 三男：「行き倒れ」人と子連れ・女性・病 一日露戦後の福島県の事例の検討
大杉 由香：戦前日本における人権抑圧
—足尾鉍毒事件が惹起した苛烈な貧困問題の実態—
- 1月31日 竹永 三男：21世紀の松尾史学
—松尾尊兌氏の大正デモクラシー史論と現代の民主主義—

【部落問題研究者全国集会】※会場は同志社女子大学

- 10月31日 全体会（戦争体験をいかに継承するか）
吉田 裕：「戦後七〇年」の地平に立って
人見佐知子、平井美津子：コメント
- 11月 1日 歴史Ⅰ分科会 〈近世身分研究の新展開〉
高垣 亜矢：一八世紀末における皮革流通構造の変容と皮商人 —津山藩を事例に
吉田ゆり子：京都の非人 —「坂」から「悲田院」へ—
歴史Ⅱ分科会 〈戦時・戦後の地域における政治構造と社会運動〉
富山 仁貴：高度成長前半期における地域社会運動と教育
—京都府丹後地域のちりめん闘争と「丹後の教育」—
中村 元：翼賛選挙期大都市近郊における地域政治構造の変容
—東京府八王子市を事例に—

ウ．学術論文等の発表

前近代・近現代の歴史研究の成果、以上の研究活動の成果の一部を『部落問題研究』誌に学術論文等として掲載した。

- ・『部落問題研究』214輯 松尾 寿：史料紹介 近世隠岐島流人の科口書（上）
- ・『部落問題研究』215輯（特集 書評をとおして考える—歴史編）
茂木陽一：書評 塚本明『近世伊勢神宮領の触穢観念と被差別民』
塚本 明：三重の部落史再考
齊藤紘子：「日用」層の社会的結合と地域
森下 徹：拙著『近世都市の労働社会』書評へのリプライ
広川禎秀：『新修彦根市史 第四巻 通史編 現代』を読む
島津 毅：中世後期の葬送と清水坂非人・三昧聖 [投稿論文]
松尾 寿：史料紹介 近世隠岐島流人の科口書（中）

- ・『部落問題研究』216輯 森下 徹：大教組文書の整理と活用

また、2009年度～2012年度の間、科研費・基盤研究（B）（研究代表者・鈴木良、研究組織15人）の交付を受けて進めた共同研究「身分・身分的周縁と部落問題に関する地域史的研究」の成果を、『身分的周縁と部落問題の地域史的研究』として部落問題研究所から刊行し、鈴木良を始めとする8人の執筆者の9編の論文を掲載した。

- ・部落問題研究所編『身分的周縁と部落問題の地域史的研究』（2016年3月刊）

エ. 2016年度の課題

以上の研究活動とその成果の一方、研究活動が、科学研究費助成事業による研究に集中する傾向も見られたため、歴史研究会や部落問題研究者全国集会への参加者を広げる点で弱さも見られた。この点の反省に立って、2016年度は、メールを活用した研究会案内の送付、他の学会等との研究会の共催などにより、研究会参加者の増加に努めることが課題である。

(2) 現代部落問題論・人権論の研究

研究活動の重点として、①同和行政の検証、②人権問題意識調査の検討、③人権侵害救済・人権擁護制度の検討、④ヘイトスピーチ問題、⑤地域における人権諸課題をあげ、以下のように研究報告・討論を行ってきた。

第53回部落問題研究者全国集会現状分析・理論分科会では、①について、村上保「兵庫県丹有地域における同和行政終結の取組み」、⑤について、中島純男「地域における介護福祉の取組み」及び三村正弘「原爆被害者相談員の会のあゆみと被爆者の人権」の各報告をうけ、討論した。

また、②については、現代部落問題論・人権論研究会で石倉康次が「最近の大阪府の人権問題調査の変化をめぐって」を報告し、④については、2014年度の研究会報告をふまえて奥山峰夫が「『ヘイトスピーチ』の法的規制を考える」（『人権と部落問題』2015年11月号）を発表した。

他に、現代部落問題論・人権論研究会で、奥野恒久による報告「アイヌ民族代表制の可能性—憲法学におけるリベラリズムと民主主義、対立の一側面」が行なわれた。

【現代部落問題論・人権論研究会】※会場は部落問題研究所

5月16日 奥野恒久：アイヌ民族代表制の可能性

一憲法学におけるリベラリズムと民主主義、対立の一側面

3月4日 石倉康次：最近の大阪府の人権問題調査の変化をめぐって

【部落問題研究者全国集会】※会場は同志社女子大学

第53回部落問題研究者全国集会「現状分析・理論」分科会では、テーマ「同和行政終結と地域の人権課題を考える」にもとづき、次の報告と討議を行った。

11月1日 村上保：兵庫県丹有地域における同和行政終結の取組み

中島純男：地域における介護福祉の取組み

三村正弘：原爆被害者相談員の会のあゆみと被爆者の人権

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究（主任研究員 梅田修）

ア. 科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行している研究

「人権教育における教育実践の構造に関する実証的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究（C）2014年～2016年）に基づく二年目の研究を推進した。研究成果の一端は、教育研究会で報告した。

イ. 各種の研究会での報告

【教育研究会】※会場は部落問題研究所

教育研究会では、適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

6月 7日 川野麻衣子：ユースワークの評価について

9月13日 森田満夫：人権教育研究指定校における人権教育

12月 6日 梅田 修：滋賀県における人権条例・人権施策基本方針などをめぐって

3月 5日 八木英二：『教育の政治的中立性』・指導要領「改訂」・子どもの人権
山田 稔：戦後「教育改革」と民主主義

【部落問題研究者全国集会】※会場は同志社女子大学

第53回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「道德の『特別教科』化の検討」にもとづき、次の報告と討議を行った。

11月1日 碓井敏正：道德の教科化と対抗戦略

折出健二：道德の「特別教科」化—その問題点と教育実践者の立ち位置

ウ. 学術論文等の発表

「人権教育における教育実践の構造に関する実証的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究（C）2014年～2016年）に基づく研究の成果を『部落問題研究』誌に掲載した。

八木英二「教育内容は誰がどのように決定するのか」『部落問題研究』212輯

(4) 人権に関わる文芸の研究

【文芸研究会】*会場は部落問題研究所

2か月に一度、例会（第196～199回）を開催してきた。各回の日時およびテーマは次に示すとおりである。

第196回（5月31日）黒川創作『京都』を読む

第197回（7月20日）今年度「思想・文化」分科会のテーマ論議

第198回（9月20日）岡田誠三作「ニューギニア山岳戦」を読む

第199回（1月31日）石塚嘉門（寺本知）作「黒い雪」「閑古堂日録」を読む

第200回（3月27日）上岡伸雄著『テロと文学 9・11後のアメリカと世界』を読む

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、『人権と部落問題』誌に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、190回を数えている。

【部落問題研究者全国集会】※同志社女子大学

第53回部落問題研究者全国集会「思想・文化」分科会では、テーマ「戦争の実相を再認識する」にもとづき、次の報告と討議を行った。

11月 1日 秦 重雄：ニューギニア戦線を描いた話題作から

島田 耕：映画人と沖縄

2. 部落問題関係資料の収集・保存・整備及び紹介に関する事業

(1) 部落問題関係資料の収集

歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸等に関する資料の収集を進めた。

(2) 資料室の整備・充実

第1資料室（開架式）の書架の整理、目録カードの入力は完了し、閲覧利用は便利になった。第2資料室（閉架式）開設の準備として、未整理の寄贈図書について整理し、目録を作成した。

(3) 研究図書・資料の収集

『人権擁護の最前線』（日本評論社）他4点の図書を購入した。また、多数の図書・資料の寄贈や貴重な資料の提供を受けた。

(4) 関係図書の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

3. 関係図書の編集・刊行に関する事業

(1) 『人権と部落問題』を毎月2400部、増刊号をふくめて年14回刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

- 「子どもの貧困」（4月号）
- 「憲法とくらし」（5月号）
- 「労働者の人権」（6月号）
- 「教科書改悪とのたたかい」（7月号）
- 「戦後70年と人権」（8月号）
- 「道徳の『特別教科』化の検証」（9月号）
- 「現代の貧困を考える」（9月増刊号）
- 「地域と人権」（10月号）
- 「言論・表現の自由と『差別表現』問題」（11月号）
- 「小中一貫校、何が問題か」（12月号）
- 「戦後部落問題の分岐点（1）」（1月号）
- 「アイヌ民族問題を考える」（2月号）
- 「憲法と戦争立法」（2月増刊号）
- 「『3・11』五年目の現実」（3月号）

連載「世界のくらしと文化」のテーマは、次の通りである。

- 「中国・雲南省①—多彩な服飾文化との出会い」（4月号）
- 「中国・雲南省②—『民族衣装』とファッション」（5月号）

- 「中国・雲南省③ーシンプルな生活を営む衣装持ち」 (6月号)
- 「中国・雲南省④ー『新しい衣装』と『古い衣装』のゆきさき」 (7月号)
- 「アメリカ南西部①ーニューメキシコ州 核開発のはざまに闘う人々」 (8月号)
- 「アメリカ南西部②ーまやかしの環境修復措置ー叙染」 (9月号)
- 「アメリカ南西部③ー『聖地開発』に対する日本の公的資金投入」 (10月号)
- 「アメリカ南西部④ー米エネルギー開発における国家犠牲地帯」 (11月号)
- 「エチオピア①ー市場は暮らしの鏡」 (12月号)
- 「エチオピア②ーカフカの『城』、ハベシヤの『城』」 (1月号)
- 「エチオピア③ー騙された話」 (2月号)
- 「エチオピア④ー無文字社会に生きる」 (3月号)

(2) 紀要『部落問題研究』の211、212、213、214、215輯を各800部刊行した。

主な論考は、次の通りである。

- 211輯 松井洋子「近世遊郭社会史の方法をめぐって」
吉元加奈美「近世大坂における茶屋の考察」
佐賀 朝「近代遊郭社会史研究の課題と展望」
- 212輯 八木英二「教育内容は誰がどのように決定するのか」
- 213輯 第52回部落問題研究者全国集会報告
- 214輯 荻原園子「貧困の世代連鎖の実態と支援・克服の課題〈歴史篇〉」
黒川奈緒「貧困の世代連鎖の実態と支援・克服の課題〈実態篇〉」
池田さおり「貧困の世代連鎖の実態と支援・克服の課題〈実践篇〉」
- 215輯 茂木陽一「書評 塚本明『近世伊勢神宮領の触穢観念と被差別民』」
塚本 明「三重の部落史再考」
齋藤紘子「『日用』層の社会的結合と地域」
森下 徹「拙著『近世都市の労働社会』書評へのリプライ」
広川禎秀「『新修彦根市史 第四巻 通史篇 現代』を読む」

(3) 関係図書編集と発行

部落問題研究所編『身分的周縁と部落問題の地域史的研究』2016年3月

4. 講習会・講演会・研究会の開催及び講師の斡旋に関する事業

(1) 研究会の開催

歴史、現代部落問題論・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した(詳細は各研究会の項参照)

5月16日 現代部落問題論・人権論研究会

- 5月31日 文芸研究会
- 6月 6日 歴史研究会
- 6月 7日 教育研究会
- 7月20日 文芸研究会
- 8月 1日 歴史研究会
- 9月13日 教育研究会
- 9月20日 文芸研究会
- 10月31日 第53回部落問題研究者全国集会・全体会
- 11月 1日 第53回部落問題研究者全国集会・分科会
- 12月 6日 教育研究会
- 1月31日 歴史研究会
- 文芸研究会
- 3月 4日 現代部落問題論・人権論研究会
- 3月 5日 教育研究会
- 3月27日 文芸研究会

(2) 第53回部落問題研究者全国集会

2015年10月31日(土)～11月1日(日)に、同志社女子大学(京都市)で、125名の参加を得て開催した。全体集会(1日目)では、吉田裕氏(一橋大学)の問題提起「戦争体験をいかに継承するかー『戦後70年』の地平に立って」にもとづいて、活発な議論を展開した。2日目は、5分科会(歴史Ⅰ、歴史Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化)ごとに報告・討論をおこなった。

(3) 『夜明け前』輪読会の開催

『破戒』輪読会に続いて、2013年9月1日より『夜明け前』輪読会を開催した。2015年度は毎月1回開催し、2016年3月で第19回をむかえた。各回10名前後の参加者があった。

5 庶務事項

(1) 臨時総会

2016年3月21日(月/祝)に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

- ア. 2016年度事業計画、2016年度収支予算
- イ. 部落問題研究所の事業・所内体制再編の将来方向

(2) 役員会

1) 理事会を12回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

- 第1回 議事 ①会員の動向について
(4月22日) ②人事問題について
③『部落問題解決過程の研究』第5巻(年表篇)の編集体制について
④研究成果の刊行、普及について
⑤会員拡大について
⑥2015年度定時総会について
- 第2回 議事 ①定時総会議案について
(5月20日) ②監査について
③単行本企画の出版について
- 第3回 議事 ①理事長・常務理事選任の件
(6月17日) ②2015年度事業計画の具体化について
- 第4回 議事 ①表現の自由、差別表現に関わる問題
(8月2日) ②財政状況について
③運営・体制の強化について
- 第5回 議事 ①所屋維持積立金一部取り崩しの件
(9月4日) ②防火対策について
③会員の動向について
④将来計画について
- 第6回 議事 ①所屋維持積立金取り崩しの件
(11月11日) ②『部落問題解決過程の研究』第5巻(年表篇)の刊行について
③公益社団法人部落問題研究所消防規定について
④公益社団法人部落問題研究所海外出張・海外招聘旅費規程について
⑤将来計画について
- 第7回 議事 ①公益社団法人部落問題研究所消防規定について
(1月13日) ②会員の動向について
③2015年度臨時総会について
④部落問題研究所の今後のあり方について
- 第8回 議事 ①部落問題研究所の今後のあり方について
(2月9日) ②公印の取り扱いについて
- 第9回 議事 ①会員の動向について
(2月19日) ②部落問題研究所の将来像について
- 第10回 議事 ①臨時総会の議案について
(3月6日) ②部落問題研究所の今後のあり方について
- 第11回 議事 ①定時総会の議案について
(5月14日) ②「出版契約に関する内規(案)」について

③部落問題研究所の今後のあり方について

④総会後の研究会について

第12回 議事 ①「部落差別解消推進法制定に反対する決議（案）」について
(5月29日)

2) 監事(4名)は、5月24日(火)に、2016年度定時総会(5月29日)に附議する業務執行状況、財産状況について監査し、これを承認した。

(3) 委員会

2006年度より、委員会体制を整理して、二つの委員会体制(編集委員会・研究委員会)をとっている。2015年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議

6回開催し、部落問題研究所の事業の運営について、適宜協議した。

(5) 会員の異動状況

2015年度末の会員数は、394名で、その内訳は、普通会員361名(内維持会費を支払う普通会員28名)、賛助会員31名(団体を含む)、特別会員2名であった。

2015年度の入会者は、普通会員16名、賛助会員1名、退会者は、普通会員24名、賛助会員1名、個人(特)1名である。